

### [3] 将来に向けた発展方策 <1> 効果が上がっている事項

中期目標・行動計画の3ヵ年計画については、2016年度から新たなタームが開始されるため、次回はさらに充実したものとすべく自己点検・評価全学委員会での検討を進める。

また「自己点検・評価報告書」については、中期目標・行動計画の3ヵ年計画とともに、一定期間ごとに編纂することで、点検・評価を改革・改善に繋げるシステムを一層強固なものとするため、引き続き、評価結果に関わらず自主的な点検・評価活動を継続し、大学内の諸活動の質の維持・向上を目指す。

### [3] 将来に向けた発展方策 <2> 改善すべき事項

2016年度から新たなタームに入る中期目標・行動計画の3ヵ年計画については、現在中期目標までが学外公表対象となっているが、行動計画及び評価指標についても併せて公表する方向で検討する。

情報公開請求への対応については、所管部署である総務部法務文書課において引き続き積極的かつ慎重に検討していく。

「神奈川大学自己点検・評価規程」及び体制の見直し、外部評価制度の導入等については、自己点検・評価全学委員会で検討を進める。

将来構想中期実行計画と自己点検・評価活動の連関については、双方の活動の主管部署である経営政策部の二課が連携を強めるとともに、学内の様々な動きも視野に入れながら活動の実効性を高めていく。具体的には、双方の活動に関する次期の開始年が2016年度であることから、2015年度中に連関を強化する施策を導入する。

教員の教育・研究活動に関わる業績については、データ管理を徹底していく。

「自己点検・評価報告書」及び中期目標・行動計画の3ヵ年計画、さらには将来構想中期実行計画を管理するWEBシステムの構築について、どのような統合を目指すのか、その方向性が定まった後、検討及び設計に着手し、2016～17年度からの稼働を目指す。

本学におけるIRの体制構築についてはシステム開発を中心に、「EMIRに関する検討ワーキンググループ」《資料X-22》において引き続き検討する。